

振り返り活動から学習を改善することができる生徒の育成

㊦ 港北中

山田中

大曾根中

千鳥丘中

久方中

守山東中

1 研究のねらい

日頃から、授業で学んだことに関する振り返り活動をさせている。しかし、振り返り活動の様子を観察していると、より良い解法を見付けようとしたり、考え方を深めようと考察したりしている生徒は少ない。それは、生徒がどのように解法を振り返ればよいか分からないことが原因と考えられる。

そこで、振り返り活動をより良いものにするために、振り返りの視点を与え、その視点から解法を振り返らせることで、自らの解法の改善点を明確にできるようにさせたいと考えた。また、自分の振り返りだけでなく、他者の解法の振り返り方を共有させることで、自分が考えた解法以外の様々な解法について、その良さや改善点に気付かせることができると考えた。

本研究では、評価基準による視点を設け、振り返り活動を行わせることで、振り返り活動から学習を改善することができる生徒を育成したい。「振り返り活動から学習を改善できる生徒」とは、自分や他者の解法について考察し、その改善点を明確にできる生徒のことである。

2 研究の内容

本研究では、次の二つの手立てを講じ、実践を進めていく。

【手立て①】 自己評価活動による振り返り

振り返り活動において、ルーブリックによる4段階の評価基準を振り返りの視点を与え、その評価基準から自分の解法を考察させることで、自分の解法の良さや改善点を明確にさせる。

【手立て②】 振り返り方を共有する

手立て①の振り返りをさせ、良さや改善点を考えさせた後、班や全体でそれぞれの自己評価の振り返り内容を発表させる。そして、発表から他者の振り返り方や改善への取り組みなどを共有させることで、自分の解法の良さや改善点を明確にさせる。

3 実践の内容

【実践1】 単元 第1学年 「正の数・負の数」

(1) ねらい

計算方法を学習後、計算テストを行い、その結果をルーブリックによる4段階の評価基準から振り返らせ、自分の解法の良さや改善点について明確にさせる。

(2) 授業の流れ

教師の主な働きかけ		生徒の反応と活動の様子											
・ 自己評価表のプリントを配付													
内容	観点	A	B	C	D								
正の数負の数の式	知識	四則が混じった計算や分配法則の計算方法も理解できている。	四則が混じった計算の優先順序を理解できている。	加法・減法・乗法・除法の計算方法は理解できている。	加法・減法の計算方法が分からない。								
	技能	四則が混じった計算でも小数・分数が入っても優先順序を守って計算できる。	四則が混じった計算の優先順序を守って計算できる。	加法・減法・乗法・除法の計算はできる。	加法・減法の計算ができない。								
<p>T：計算テストを振り返り、どの観点にあてはまるか自己評価をしてみよう。次への目標・課題を書き込もう。</p> <p>【生徒の記述】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>自己評価</th> <th>次回への課題・どのように改善するか（目標）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識</td> <td>A</td> <td rowspan="2">振り返ってみて、四則計算のきまりなどは分かっているが、小数が入ってくるとややこしくなってミスをしてしまうことがはっきりした。分数の計算に気をとられ、符号をミスってしまうことがよくあるので気を付けたい。</td> </tr> <tr> <td>技能</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table>		観点	自己評価	次回への課題・どのように改善するか（目標）	知識	A	振り返ってみて、四則計算のきまりなどは分かっているが、小数が入ってくるとややこしくなってミスをしてしまうことがはっきりした。分数の計算に気をとられ、符号をミスってしまうことがよくあるので気を付けたい。	技能	B	<p>・ 評価基準から自分の解法を考察し、プリントに記入する。</p> <p>S：整数の計算なら間違えずにできるけど小数や分数が入ると計算間違いをよくしてしまう。次はそこを気を付けたい。</p>			
観点	自己評価	次回への課題・どのように改善するか（目標）											
知識	A	振り返ってみて、四則計算のきまりなどは分かっているが、小数が入ってくるとややこしくなってミスをしてしまうことがはっきりした。分数の計算に気をとられ、符号をミスってしまうことがよくあるので気を付けたい。											
技能	B												
<p>T：班の形にして、それぞれどのような振り返りをしたのか発表しよう。班の子の反省の視点や改善への取り組みを考察しよう。</p>		<p>・ 自己評価と振り返り内容を発表し、考えを共有する。</p> <p>・ 再度、自己評価を振り返る。</p>											

【実践2】 単元 第1学年 「文字式の計算」

(1) ねらい

文字式の計算について学習後、計算テストを行い、その結果をループリックによる4段階の評価基準から振り返らせ、自分の解法の良さや改善点について明確にさせる。

(2) 授業の流れ

教師の主な働きかけ		生徒の反応と活動の様子			
・ 自己評価表のプリントを配付					
内容	観点	A	B	C	D
文字式の加法・減法	知識	かっこの前の「+」「-」で、かっこをはずして計算することを分かっている。	文字の部分が同じ項同士、数の項同士をそれぞれまとめて計算することを分かっている。	文字の部分が同じ項同士をまとめて計算することを分かっている。	文字の部分が同じ項同士をまとめて計算すること分かっていない。
	技能	かっこの前の「+」「-」で、かっこをはずして計算できる。	文字の部分が同じ項同士、数の項同士をそれぞれまとめて計算できる。	文字の部分が同じ項同士をまとめて計算できる。	文字の部分が同じ項同士をまとめる計算ができない。

<p>T：計算テストを振り返り、どの観点にあてはまるか自己評価をしてみよう。次への目標・課題を書き込もう。</p> <p>【生徒の記述】</p>	<p>・評価基準から自分の解法を考察し、プリントに記入する。</p> <p>S：同じ項同士を計算することは分かるが計算間違いがあって、計算の仕方をしっかり理解できていなかった。</p>									
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>評価</th> <th>できたこと or わかったこと・再チャレンジしたいこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識</td> <td>C</td> <td>同じ項同士を計算するという事は理解できていたけれど、計算の仕方・決まりなどのことをしっかり理解できていなかった。そこをしっかりと理解した上で再チャレンジしたい。</td> </tr> <tr> <td>技能</td> <td>C</td> <td>同じ項同士を計算することはできていたけれど、答えの書き方がわからなかったり、同じ項同士だけを計算して符号がどうなるか理解できていなくて、計算の仕方が間違っていた。</td> </tr> </tbody> </table>	観点	評価	できたこと or わかったこと・再チャレンジしたいこと	知識	C	同じ項同士を計算するという事は理解できていたけれど、計算の仕方・決まりなどのことをしっかり理解できていなかった。そこをしっかりと理解した上で再チャレンジしたい。	技能	C	同じ項同士を計算することはできていたけれど、答えの書き方がわからなかったり、同じ項同士だけを計算して符号がどうなるか理解できていなくて、計算の仕方が間違っていた。	
観点	評価	できたこと or わかったこと・再チャレンジしたいこと								
知識	C	同じ項同士を計算するという事は理解できていたけれど、計算の仕方・決まりなどのことをしっかり理解できていなかった。そこをしっかりと理解した上で再チャレンジしたい。								
技能	C	同じ項同士を計算することはできていたけれど、答えの書き方がわからなかったり、同じ項同士だけを計算して符号がどうなるか理解できていなくて、計算の仕方が間違っていた。								

【実践3】 単元 第1学年 「文字の式」

(1) ねらい

授業の学習内容理解度を自己評価表と照らし合わせて振り返らせ、次の授業への取り組み方を明確にさせる。

(2) 授業の流れ

教師の主な働きかけ		生徒の反応と活動の様子			
・自己評価表のプリントを配付					
内容	観点	A	B	C	D
文字を使った式	態度	マッチ棒を使い、自ら決めた目標に到達した。	マッチ棒を使い、自ら決めた目標にやや到達した。	マッチ棒を使って考えたが、目標には到達しなかった。	学習に取り組むことができなかった。
	知識	文字を使うことの便利さ、よさを理解できている。	文字を使う意味が理解できている。	文字の使用の仕方は理解できている。	文字のよさが分からない。
	技能	規則性のある図形をつくることができ、そこから文字式に表すことができる。	規則性を見付け、そこから文字式に表すことができる。	規則性を見付けることはできるが、文字式に表すことができない。	規則性を見付けることができない。
<p>T：授業内容を振り返り、どの観点にあてはまるか自己評価をしてみよう。次への目標・課題を書き込もう。</p> <p>【生徒の記述】</p>		<p>・評価基準から自分の解法を考察し、プリントに記入する。</p> <p>S：文字を使うと便利ということは分かったが、文字式に表すことができなかったなので、次は表せるようになりたい。</p>			
観点	評価	できたこと・できなかったことの明確化			
態度	A	授業には前向きに取り組めたし、マッチを使っていろいろな形をつくることができた。			
知識	A	文字を使うとどんなときでもマッチの本数が求めることができ便利だと気付けた。			
技能	C	いろいろな図形にチャレンジすることはできたが、文字式に表すことができなかったなので今度は表せるようになりたい。			

【実践4】 単元 第3学年 「二次方程式」

(1) ねらい

二次方程式の計算内容をすべて学習した後、計算演習プリントを、時間を計って行い、自己採点をする。その結果を見て、自己評価表と照らし合わせて振り返らせ、次の学習へ何を課題にして取り組んでいくか明確にさせる。

(2) 授業の流れ

教師の主な働きかけ		生徒の反応と活動の様子		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算プリントを配布する。 ・ 自己評価表のプリントを配布する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算プリントを行い、自己採点する。 		
内容	観点	A	B	C
二次方程式とその解き方	知識	二次方程式は問題によって解き方が工夫できることを理解している。	二次方程式の解の公式を理解できている。	二次方程式の基本問題の解き方を理解できている。
	技能	二次方程式を自分で解き方を選択し、「早さ・簡単さ・正確さ」を考えながら解くことができる。	二次方程式の問題を解の公式を中心に解くことができる。	二次方程式の基本問題を解くことができる。
<p>T：計算演習プリントを振り返り、どの観点にあてはまるか自己評価をしてみよう。次への目標・課題を書き込もう。</p> <p>【生徒の記述】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価基準から自分の解法を考察し、プリントに記入する。 S：間違えずに解くことができ、時間も余った。早さの観点を考えるのならば、因数分解を使った方が早いと思った。 		
観点	自己評価	次回への課題（目標）		
知識	B	解くことはできるが、多くの問題で解の公式を使って解いたため、時間が足りなかった。計算に時間がかかるし、間違えもちょこちょこしていたので、解の公式は「早さ・簡単さ・正確さ」からはかけ離れていると思った。		
技能	C			

4 研究のまとめ（成果○と課題●）

- 自己評価の項目をただ4段階評価するだけではなく、どこまでできたかの具体的な内容から選ぶものにしたので、より正確な自己評価になった。
- 評価基準が明確化されていたので、自分の理解度がどのように評価をされているのかを生徒が知る機会にできた。
- 自己評価の知識の振り返りでは、自己評価を通じて、答えが導かれる根拠を理解しているかを言葉で振り返ることを促すことができた。
- 振り返りが苦手な生徒でも、考えやすいものになった。
- 自己評価基準に関する説明が長く、生徒に伝わりやすいものではなかった。
- 自己評価基準を見て自分の足りない技能は明確化されていたが、それを解決するための具体的な取り組みを考えられている生徒が少なかった。
- 自己評価をした後に生徒がどのように変わることができたのかを実感できるような取り組みを考えなければいけないと感じた。
- 自己評価を毎時間ではなく、単元の最後などタイミングを考える必要性があった。